

最新技術の積極的活用により生産性向上を実現 蓄積したランプ成形技術を活用し新分野に進出

1986年、自動車用ヘッドランプの世界的メーカーである小糸製作所の協力会社として創業した。自動車のヘッドランプ、テールランプ等輸送機器用の樹脂成型専門企業として、自動車のデザイン性が重要視されるに伴い、高度な技術力が要求されるなかでも、徹底した品質管理と独自の成形技術で、高品質な製品を安定的に製造、供給し続けている。近年では、既存技術を活用し、集光型太陽光発電用レンズを開発をするなど、新製品開発にも積極的に取り組んでいる。

所在地 静岡県牧之原市坂口2400
電話/FAX 0548-29-0119 / 0548-29-0848
URL <http://dik.jp>
代表者 代表取締役社長 東 寛

設立 1986年
資本金 2,000万円
従業員数 233人



最新技術の積極的導入や徹底した品質管理体制の実現により付加価値向上を実現

レンズに用いられる透明樹脂製品は、樹脂内異物および樹脂表面に付着する高分子分解ガスによる不具合が最大の課題であった。同社は、不具合の解決のため、温湿度を一定に保つことができるクリーンルームを導入し、樹脂材料を徹底管理することを可能とした。また、検査工程においても、従来の人の手による接触測定から、非接触3次元測定器による方法に変更することで、レンズの微細精密形状を0.1 μ m単位まで測定を可能とし、徹底した品質管理体制を実現した。



レンズ工場クリーンルーム

システム導入による一括管理と物流プロセスの改善で生産性向上を実現

近年、自動車ランプのLED化により、各種レンズパーツの点数が増加し、自動車ランプ市場は市場拡大が見込まれている。同社では生産量増加への対応策として、最新IoTによる統合生産管理システムを導入。徹底した製品管理を行い、受注から生産、販売、経理まで同一システムによる一括管理で業務効率化に取り組んでいる。さらに、工場の運行周回ルートの整備や、工場から物流センターへのダイレクト搬入化など、物流プロセスを大幅に改善し、生産性の向上を図る取組を行っている。



LEDヘッドランプ

自動車用ランプ部品の既存技術を活用し、新分野製品へ進出

同社は、大手企業からの依頼を受けたことをきっかけに、太陽光発電の低コスト化に不可欠な集光率の高いフレネルレンズの研究開発を開始した。長年培った自動車用ランプ部品のレンズ成形技術、金型開発技術を活用し、「集光型太陽光発電用レンズ」の開発を実現、量産化にも成功した。この集光型太陽光発電は、従来型と異なり、接地した太陽光パネルの下を有効活用できるメリットがあり、国内外の多方面において需要獲得の可能性を秘めている。



集光型太陽光発電装置